<市町村探訪>
う わ さ の こ の ま ち

このコーナーでは、各地域における市町村の取り組みをご紹介します。今回は、水戸市をとりあげてみました。

通年導水の実現により年間を通し水を湛えた堀

水の都水戸と備前堀

水戸市は長い歴史と伝統を誇る，豊かな水と緑に恵まれた文化都市です。旧城下町の下市地区にある備前堀は，慶長15年（1610）に，「初代藩主　徳川頼房公」の命により「伊奈備前守忠次」らによって下市や常澄地区へ農業用水を導くことと，千波湖の氾濫対策を目的に造られました。当初は千波湖から水を流しましたが，大正10年から昭和7年の干拓事業で千波湖が現在の形に縮小され，桜川が千波湖から切り離されたため，桜川から取水するようになりました。一方，備前堀は，歴史的な風景を生み出す文化的遺産として，また地域の人々の生活と憩いの場として親しまれてきました。しかし，堀の破損や川底のヘドロ等により環境が悪化し，地域の人々からは備前堀の再生・整備を望む声が挙がりました。

備前堀等整備事業

このため，堀の修復だけでなく下市地区の活性化と水戸市のまちづくりを見据え，「水辺・街並・まちづくり」を基本に，周辺の道路，橋，公園を取り込んだ総合的なまちづくり事業（備前堀等整備事業）が実施されました。平成4年度には建設大臣から「手づくり郷土賞」を受賞しています。備前堀周辺には神社が点在し染色業を営む店があり，下町情緒豊かな風情が漂っています。紺屋町の町名からも当時の人々のくらしぶりを垣間見ることができます。平成8年，備前堀は市民の投票により新水戸八景の一つに選ばれました。備前堀周辺は歴史ロード親水公園として整備され，新緑の柳並木は昔の風情を今にとどめています。歴史ある水辺を大切にした，うるおいの感じられる路です。

歴史的風情を醸し出す道明橋、
周囲の景観にマッチした案内板と街灯もたつ

確かなる萌芽

市民の憩いの場として利用されている備前堀は，地元のボランティア団体が定期的に清掃作業を行っています。これまで農閑期には水が流れなかった備前堀に，地元住民が待望していた通年導水が今年4月に実現したことから，8月には夏の風物詩でもある，灯ろう流しが5年ぶりに地元住民自らの企画により行われました。

また、昨年7月，備前堀沿いに住む住民を中心に備前堀景観推進協議会（高橋良彰会長）が設立されました。水戸市では、平成4年に「水戸市都市景観条例」を制定しており、同協議会は統一性のある都市景観でまちの魅力を高めようと，独自の景観基準づくりに取り組み、景観条例に基づく都市景観重点地区の指定を目指しています。

柳の緑がやさしくたなびき、おだやかな水の流れが、石畳の散策に心地よい風をそそぐ街並み―備前堀。

歴史的な景観を守り，次の世代に残していくための市民の積極的な取り組みが今後も注目されます。

（問い合わせ：水戸市都市計画部都市計画課
都市デザイン係　029-224-1111　内508）